

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070701760		
法人名	社会福祉法人 倫尚会		
事業所名	グループホーム 倫尚園 Aユニット		
所在地	福岡県北九州市八幡西区馬場山東3丁目11番1号		
自己評価作成日	令和5年12月22日	評価結果確定日	令和6年1月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん	
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号	
訪問調査日	令和6年1月11日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム倫尚園は、福祉を望む自然豊かな環境の中に建ち、特別養護老人ホーム、養護老人ホームとの高齢者複合施設の隣に位置しています。コロナ禍以前は3施設合同や地域の方を招いて盆踊りや餅つきなど活発に交流も行っていました。新型コロナウイルスが第5類移行に伴い感染対策は継続しながら徐々に施設合同の大きなイベントや行事を再開しています。2階の地域交流ホールではストレッチ体操や音楽クラブが定期的に開催されており、多くの方が参加されています。グループホーム内では食堂や座敷談話コーナーなど一人ひとりを尊重、くつろいでいただける空間づくりを行っています。また広々とした庭園で四季折々の山々を眺めながら車椅子でも気軽に散歩したり、季節の野菜や花を植えて楽しんだり、気候の良い時期には外気浴をしながらおやつでの提供など野外での活動にも工夫を凝らし、利用者の「喜ぶらるるの場」として潤いと豊かさ、フリースペースに配慮した家庭的な生活環境を提供しています。職員は「認知症」に対する理解を深める為、勉強会やオンラインでの研修、プロジェクトでの活動に参加し、知識や技術の向上を目指しています。令和2年1月より医療連携体制を整備し「訪問看護ステーションむつみ」と24時間体制で連携して安心安全な暮らしができるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関口に理念を掲示し、本人らしさを大切にした生活を継続する具体的な介護計画を作成し、日課の新聞購読やホーム内での階段昇降、敬老の日にお茶の点前を披露するなど、健康な機能の維持や役割作りにも全員で取り組んでいる。毎月の寿司バイキングや行事茶会は好評で、果物や甘い物、晩酌代わりにノンアルコールに舌鼓を打つなど、夫々の夢を叶えている。伴侶の逝去後もそのままホームで過ごし、好物の羊羹などを少量ずつ経口摂取できていた方を昨年看取っているが、親族に見送られ大往生であった。職員提案による初のハロウィン行事は入居者も笑顔となる全員が楽しめる企画となり、職員は意見を出しやすい環境で、楽しく生き生きと就労している。予約制で場所や人数を制限した面会をお願いしているが、面会や電話連絡時などに伺った意見は丁寧に対応し、家族や地域代表の参加で定期的に開催している運営推進会議では、継続しているお寿司バイキングに参加者から称賛の意見があった。今後も理念に謳った尊敬を保ち安心して生活や自己選択、自己決定に配慮した支援が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **Aユニット／グループホーム倫尚園**

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は見やすい場所に掲示し、管理者・職員共に共有し、新人職員に対しては入社後に理念について説明・指導を行っている。	玄関口に理念を掲示し、管理者は新規入職時や日々の実践の場面で、理念を具体的に説明をしている。入居者への目配り、気配りでその人らしさを発見し、理念を具現化していると職員は話している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として自治区会に入っており、運営推進会議にも近隣住民代表として参加している。	コロナ禍以後、ごみ拾いなどの地域活動が休止し、挨拶を交わす機会が減っているが、運営推進会議は自治会長や民生委員の出席で再開している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策により現在地域の方々と交流や接する機会がなく実施できていないが、今後は地域の清掃等から少しずつ始め、地域の方々との交流を増やしていきたい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策で書面での開催だったが今年7月より園にて対面で開催している。会議内ではホームでの活動や生活の様子等を写真で報告し意見をもらっている。	家族や地域代表の参加で、階上の地域密着型特養と合同で定期的に行っている運営推進会議は、議事録を整備し家族に内容を報告している。継続しているお寿司バイキングに、参加者から称賛の意見があった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターとは空室状況の問い合わせや相談等にて協力関係を築いている。	担当部署からリモート研修の案内も継続している。新たに2名の入居者の紹介もあり、その後の経過を報告するなど連携をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	福岡県の「身体拘束ゼロ宣言」に登録しており、外部のオンライン研修や身体拘束等適正化委員会を3ヵ月毎に開催し、身体拘束についての具体的なケアを理解し取り組んでいる。	身体拘束ゼロを掲げ、研修でスピーチロックを学び、言葉で拘束しない適切なケアに取り組んでいる。日頃は職員が買い物に興味の方に同行していたが年末窓から離園され、警察に連絡する寸前にタクシーで自ら帰園され胸を撫でおろしたが、対応を検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については外部のオンライン研修や推進プロジェクト等に参加し、学ぶ機会を作り、職員間で情報を共有し、虐待防止に努めている。(外部のオンライン研修)			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での研修、推進プロジェクト等に参加し、家族より相談を受けた時には対応できるよう支援しているが現在、当ユニットには活用されている入所者はいない。	新規入居者が成年後見制度を利用することになり、後見人との関わりから研修内容の理解が促進している。日常生活自立支援事業の活用はないが、資料を揃えて研修している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書面に沿って説明し、不明なことは理解、納得されるまで十分に説明を行っており、納得をいただいた上での契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には、意見・要望をその都度聞き、またホーム便りのふれあいにてホームでの生活を報告している。届いた意見等は都度話し合い、すぐに対応するようにしている。	コロナ禍で行事後に開催していた家族会も開催していない。面会や電話連絡時などに伺った意見は、丁寧に対応している。3か月毎に発行している笑顔満載の写真が掲載されたホーム便りは、家族に好評である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務時間内・外で行われる勉強会では職員が中心となり積極的な意見交換を行っている。また施設長との個人面談も行われ直接意見や提案を聞く機会を設けている。実際に職員の意見を反映させ制服の変更を行った。	管理者は現場にいる事が多く、会議に関わらず随時話し合いが行われ、入居者の支援など必要なことはすぐに検討されている。施設長(管理者)との個人面談で提案された制服の変更が叶い、希望通りの新たな制服で快適に就労している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、やりがいや意欲向上の為にフレッシュ休暇や福利厚生の実施に取り組み、働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用に関しては、法人として行われ、性別や年齢等による排除はしていない。定年後も働ける体制を整えたり、職員一人ひとりの能力や要望を考慮し、施設内での異動やユニット替え、柔軟な勤務形態で対応し、個々の能力が発揮できる環境づくりに努めている。	法人の募集で入職した40代から80代の男女職員が勤務している。産休や育休、子育て支援にシフトを調整し、資格や経験を活かしたと他の職場から復帰した開設以来の職員も居る。職員提案による初のハロウィン行事は入居者も笑顔となり全員が楽しめる企画となり、職員は意見を出しやすい環境で、楽しく生き生きと就労している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修や推進プロジェクトにて学ぶ機会を作り、勉強会でも具体的に話し合いを行い取り組んでいる。	法人による人権擁護研修が位置付けられ、定期的に研修が行われている。理念を振り返り、尊厳を保ち安心した生活の保証を謳い、自己選択、自己決定に配慮した支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	外部のオンライン研修や施設内研修にて人 材育成を学んだり新規職員指導、研修 チェック表を活用し実力に合わせた人材育 成を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取組みをしている	感染対策にて外部との接触を控えており実 施できていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、本人の安心を確保するための関係づくりに努め ている	入居が決まった時点で、本人が不安を感じ ていること等を傾聴し、フェイスシートをもと に本人の要望を重視しながらサービス内容 を検討し、安心して生活して頂けるよう務め ている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	入居申込時に家族の置かれている状況、 不安感をしっかり聴き取り、信頼して頂ける 関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等 が「その時」まず必要としている支援を見極め、他 のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込時から本人、家族と面談を行い担 当ケアマネージャー、医療機関等からの情 報を把握し、カンファレンスを実施して良い サービスが提供できるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活をする中でお互いに学び支え合 う関係づくりに努め、人生の先輩である利用 者からも多くの知識を得て共に暮らす関係 を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	病院受診や行事の参加等、家族の協力を 得て本人を支え、面会時には状況報告や相 談、要望等を話し合いながら家族と一緒に 本人を支援する関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に手紙を書いたからと送付する代行をしたり、住んでいた馴染みの場所を忘れないようにドライブがてら付近を通ったりと関係継続の支援を行っている。	予約制で場所や人数を制限した面会をお願いしているが、夫々別のユニットに入居されているご夫婦が時には一緒に食事できるように配慮したり、「正月に孫がたくさん来たから」とお年玉を急いで準備する微笑ましい光景を見守り、家族との関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は様々だが、誰一人孤立しないよう食堂での座る位置や人間関係を配慮し、うまく交流ができるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族と連絡をとり、相談を受けたりと必要に応じて関係継続を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	誕生日月に一人一人の夢や希望を叶える活動を行っており食べたいもの、お酒が飲みたい等の希望を工夫して支援している。	下肢筋力の低下が進み椅子での暮らしを勧めたが活気が戻らず、掘りごたつで食事や作業をできるように支援したり、お茶会時の写真の横にお点前を披露された入居者の喜びの言葉が記載されるなど、思いや意向に寄り添う支援が展開している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の思いを汲み取り、生活歴、サービス利用の経過等の把握により馴染みの生活用品等も持ち込んで頂き安心した生活ができるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務出勤時には申し送り簿、生活支援記録に必ず目を通し、引継ぎで新たな情報を共有できるよう現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を第一に、担当者から計画作成担当者に提案したり、残存機能を生かし一人ひとりの状態に応じたケア実践に向け、介護計画を作成している。	本人らしさを大切に生活を持続する具体的な介護計画を作成し、チェック表に沿った細やかな支援が展開している。日課の新聞購読やホーム内での階段昇降、敬老の日にお茶のお点前を披露されるなど、健康な機能の維持や役割作りに全職員で取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画チェック表、個別サービス管理表、生活支援記録、介護活動チェック表、健康管理表等の記録を職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご夫婦で入居されている方には一緒に食事をしたり活動に参加できるよう支援している。また家族も高齢で受診や様々な手続きも困難になっており希望があればこちらで代行も行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニエンスストアの配達サービスを利用し外出困難な方でも買い物ができ、好きな食べ物等を選んで購入できるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を確認し、かかりつけ医との個別受診、経過記録を作成している。また訪問看護との連携や在宅医療を活用し歯科、眼科等適切な医療を受けられるよう支援している。	状態把握の為に家族と共に職員も、かかりつけ医受診に同行している。詳細な個別の経過記録は週1回の訪問看護師や緊急時の対応に活かされ、適切な医療受診に結びついている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	複合施設内に看護師が常勤しており、緊急時には相談・対応も依頼している。また訪問看護と24時間連絡や相談ができるよう医療連携体制を整備している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に家族または医療関係者との情報交換を密に行っている。また、要望があればカンファレンスにも参加し、状態の把握に努め、早期退院できる様に連携を取っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期に向けた指針を作成し、家族一人一人に説明、同意を得ている。昨年8月にも1名の看取りを行った。訪問看護と協力して医療連携体制を整備し、重度化や看取りに取り組んでいる。	伴侶の逝去後もそのままホームで過ごし、好物の羊羹などを少量ずつ経口摂取されていた方を、昨年看取っている。親族に見送られ大往生であった。殆どの入居者がホームでの看取りを希望され、今後も協力病院や訪問看護師と連携し、看取りを支援する予定である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修や勉強会にて学ぶ機会があり、またマニュアルを作成し、いつでも見れるようにしている。消防署からの救命についての実践講義は感染対策にて実施できていない。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	複合施設として定期的に昼夜・風水害等様々な災害を想定した避難訓練を実施している。非常時の持ち出しファイルを作成し情報の一本化を行っている。	夜間想定や自然災害対応の避難訓練を法人合同で年3回実施している。施設内放送が聞こえにくいや月1回はコンセントの埃チェックなどの意見を集約している。前回のクラスター発生時の経験を活かした役割分担やゾーニングで、今回は入居者のみで収束している。	日頃の避難訓練やクラスター発生時の体験を活かした事業継続計画の策定に期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内や外部のオンライン研修、推進プロジェクト、勉強会等において意識付けを行っており、プライバシーの確保、言葉かけに配慮し、さりげないサポートを心掛けている。	オンライン研修等の伝達講習で、「～してください」がスピーチロックになるとの認識を深めている。できることを維持し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を実践している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から日常生活や会話の中で自己決定ができるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室でゆっくり過ごされる方もいらっしゃるが、食堂でテレビを観られる方もいらっしゃる、本人のペースや希望を重視し、支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着用する衣類は本人に選んでいただき、意思決定ができない方はその方に似合ったものを選び支援している。化粧、髭剃り等自身でできる方に関しては自由にしている。また、月2回程度出張理美容に来ていただき、希望時にカットやカラー、パーマ、顔そり等されている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けやお米とぎ、配膳、テーブル拭き等それぞれの意欲や残存機能を活かして手伝って頂いている。又、毎月の誕生日会、寿司バイキング、お好み喫茶、クリスマスや元旦等の食を楽しむイベントを多く取り入れている。	毎月の寿司バイキングや行事食は好評で、果物や甘い物、晩酌代わりにノンアルコールに舌鼓を打つなど、夫々の夢を叶えている。各ユニットで炊飯したご飯と厨房手作りの優しい味の副菜が食卓に上り、咀嚼や嚥下状態に応じた食形の食事を各々のペースで楽しめるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	複合施設として調理は厨房で行われており、栄養士が栄養バランスを考えた献立を提供している。刻み食やミキサー食等に加え必要な方には栄養補助食品（高カロリー食、プロテイン等）を提供する等、一人ひとりに応じた食事の提供を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥傾向にある方には吸引ブラシを使用したり、歯間ブラシ、口腔スポンジを使用する等一人ひとりの口腔状態に応じてケアを行っている。また、訪問歯科の先生より指導を受けたり、治療をして頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成して、目安となるパターンの把握に努め、トイレ誘導等を行っている。また、できるだけ布パンツの使用を考え、支援している。	排泄パターンに沿って、4ヶ所の広めのトイレでの排泄を促している。立てる方には歩行器での移動を支援し、間に合わない時ポータブルトイレを使用している。便失禁時は24時間入浴可能な浴室で洗浄している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤だけに頼らず、適度な運動や乳製品、水分を細めに提供し、腹部マッサージをして便秘予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週3回、24時間入浴可能な温度に設定されている。1人で個浴を楽しまれる方、気の合う方と入浴される方、好みのシャンプーや洗顔を持ち込んで入浴される方等、一人ひとりが楽しく入浴できるよう支援している。	24時間入浴可能な広く明るい檜風呂が設置され、個浴や入居者同士の入浴を週3回ゆつくりと楽しめるように支援している。以前は夜間に入浴する方もあったが、この頃は日中に入浴する方ばかりである。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人ひとりの状態に応じて適度な活動を実施し、就寝時間等も生活習慣に応じて柔軟に対応している。寒い時は湯たんぽを入れる等、安眠できるような支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が服薬している薬の説明書をファイリングし、全スタッフが見れるようにしている。副作用のある食べ物は代替にて提供している。服用後の異常等あれば主治医に連絡し、指示を仰いでいる。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗い物や洗濯物たたみ等、残存機能を活かした役割を大切に、飲酒等の嗜好品も可能な限り楽しめるよう工夫して支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや花見、初詣等福祉車両を使用して車椅子の方でも外出できるよう支援している。また、その日の希望にて可能であれば外出できるよう対応している。	コロナ感染が5類になり、彼岸花やコスモスの花見に出かけたり、週に1回は職員とデートと称して出かける買い物好きの入居者もある。敷地内の広い庭は緑の山々に囲まれ絶好の散歩コースとなっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じて自由にお金を使えるよう支援している。実際にひ孫面会時におこづかいをあげる為、お金を所持されている方もいらっしゃる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時には電話ができる様に支援している。また、手紙のやり取りができるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度等)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただく為、四季の草花や壁面を飾ったりしている。座敷には堀ごたつがあり、利用者がゆっくりとくつろげる雰囲気づくりをしている。玄関ではメダカ、中庭ではカメを飼っておりペットの世話をする日常を感じられるよう工夫している。	行事毎の写真や飾り文字が掲示された中庭周りの廊下は、一角に生けられた臘梅の香りが漂い、所々にソファが配置され、昼食後職員と参歩する入居者がある。居間は堀り炬燵のある座敷や組み合わせ自由なテーブルが設置され、風船パレーの明るい活発な声が響き、心地よい空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や談話コーナー、座敷等で利用者同士で過ごしたり、一人で読書をしたりと自由に過ごせる環境づくりを行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使いなれた家具や写真を持ち込んで頂き、家庭での生活の延長として過ごせるよう配慮している。	戸口には表札と本人の顔写真、しめ飾りが飾られ、清掃が行き届き採光や眺望に配慮された居室は、仏壇や筆筒、テレビを持ち込み、家族写真が飾られている。仏壇を持ち込まれた方は毎朝ご飯のお供えを日課にして自宅の様に過ごしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限り残存機能を生かした生活を心掛けている。施設内の手すり、起立する為の安全バー、居室トイレの表札、トイレ等も大きな字で表示し混乱のない様に工夫している。		